

安全はすべてに 優先する

6・2 リーガロイヤルNCB 2階 「淀の間」

考えられる。コンクリート圧送工事業は、セネコンの下請専門工事業として位置付けられる。そのため、現場の不備を中々指摘・改善できない自己規制が働く。だからこそ、業者団体としての大圧協の役割と責任がある。今後、気持ちを強くしてセネコンへの申入れや安全パトロールの強化などに取り組んでいく。

さて、感電事故の際、心臓マッサージなどの救急救命措置が生死の境目を分けたと指摘されている。そこで、大圧協は全社全圧送従事者に対し「普通救命講習」を受講すること義務付けた。今年中に全員が受講し、消防署の修了証カード持することにした。既に、2社24名が受講している。

〈第1回安全大会報告〉

上記経過を踏まえて、全圧協安全週間準備期間である6月の2日に、記念すべき第1回安全大会を開催した。

主催者挨拶として、岩坂和史安全技術委員長（大圧協副理事長）がこの間の経緯と各種取組を説明、特に

働く者の生活の安定（社会保険加入・労働基準法遵守・賃金体系の整備など）こそが安全施工の基礎にあるという認識を示した。今後、参加者にあらためての安全意識を要請すると共に、大圧協の安全管理強化の決意を表明した。

来賓挨拶は、大阪大林組本店・大西和彦安全環境部長から全国・大阪の労働災害の現状と課題を指摘、安全意識の確立を訴えられ、大阪竹中工務店大阪本店・古川政彦安全環境部長から自社関連の具体的死亡災害事例を紹介、事故の悲惨さと建設機械の点検の重要性を強く訴えられた。

引き続き、建設産業専門団体近畿地区連合会並びに大阪府建設連・北浦年一会長から安全大会が形骸化しない様にとの忠告と共に、建設現場の危険の常態化と建設職人の労働条件の悪化に警鐘を鳴らした。職人学校・技能者会の創設など、安全施工体制と職人の社会的地位向上にかける思いを述べられた。全圧連・前田成美専務理事から圧送工事の事故の大半が、ヒューマンエラー・ケアレスミ

スの人的要因とポンプ老朽化に伴う機械的要因にあると指摘された。全圧連も組織をあげて安全対策に取り組んでおり、今後とも手を携えて共に前進する旨を表明された。最後に、大阪府議会・半田議員からこの間の圧送勉強会の経過を語られ、行政に圧送工事の重

要性と問題点を伝えることの大切さを報告。さらに、現状の行き過ぎた競争入札は、下請けや労働者に犠牲を強いていると鋭く指摘、大阪府では有効なダンピング規制を実施している成果を述べられた。

次に、増田幸伸専務理事から安全衛生管理方針の提起及び実施項目などが説明された。続いて、安全衛生優良者表彰（21名）、人命救助の功を讃える特別表彰（2名）、受賞者を代表しての安全宣言（豊田裕・大圧協として初めての安全宣言）がなされた。ゼロ

田理事長の挨拶を皮切り、各社各人酒を酌み交わしての交流、抽選会もあつて、終始和やかに進んだ。大圧協として初めての安全大会は無事終了した。ゼロ災害の決意を新たに示すことができたと考えている。

普通救命講習

大圧協加盟の全圧送従事者（現場にでる経営者・労働者の全員）は、年末までに、普通救命講習を修了しなければならない。そこで、消防署に頼り過ぎない様に、大圧協事務局4名が応急手当普及員（3日24時間講習・認定試験）資格を取得した。第1陣として、5月19日（土）近圧ポンプ機・機ヒットセンボク2社24名が受講した。



講習内容は、心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）を用いた心肺蘇生法など基本的なもので、①救命講習の必要性や講習会のねらいを説明。②解説に合わせて、応急手当普及員がダミー人形を使った心肺蘇生の一連の流れを実際に行う。③受講者を3つのグループに分け、それぞれのグループに普及員が1名ついて実際にダミー人形を用いた心肺蘇生法を体験してもらう。④全体を通した補足的な説明と受講者からの質疑応答。といった流れで講習はすすめていく。おおよそ2時間30分にわたる講習ではあったが、

生命を救う為の講習ということから、全体を通してそれぞれが真剣な表情でこの講習会に取組んでいた。参加した受講者にはこの講習が、万一の場合、現実に役立ってくれることを祈念する。

尚、すでに盆休みを利用した受講申入れもある。大圧協としては、受講促進のため、当会館の大会議室で前もって日時を指定して講習会を行う。いずれにしても年末年始の繁忙期を避け、前倒しで修了する予定。